



「持続可能で強靱な観光国際年」 セミナー

JTBの考える持続可能で強靱な観光

September 25th, 2026

Tourism Expo Japan 2026 | Tokyo, Japan

Best Tourism Villagesをご存知ですか？

- 1]人口15,000人以下の地域
- 2]農業、林業、畜産業、漁業などの第一次産業を行っていること
- 3]地域コミュニティの価値観やライフスタイルを
保持するような取組を行っていること

URL（観光庁）：

https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/jizokukano_taisei/torikumi/btv.html

URL（国連世界観光機関）：<https://www.untourism.int/best-tourism-villages-2026>

日本には12のBTV認定地域と2つのアップグレード地域が存在します。

認定地域】

ニセコ・美山・美瑛・
奥松島・白馬・白川・
明日香・西川・天城・
高野山・小豆島・土庄

アップグレード地域】
山古志・白山



UN Tourism事務局長より

JTB会長の山北は相談を受けました。

1. Best Tourism Villagesを、是非ともJTBのチカラで盛り上げてほしい。
2. 地域によって課題は千差万別
3. 各地域にアンケートを取って状況を把握しよう。
4. 各地域に訪問して、現地をProの目で視察しよう。
5. 各地域の自治体の皆さんと話して要望をヒアリングしよう。
6. 8月から土庄、小豆島、奥松島、西川、山古志、
9月には、しらやま、ニセコ、美瑛を訪れてまいりました。

その過程で持続可能で強く韧やかな観光の物語を見つけたので共有します。

1/5 火山と共に生きる大地

— 美瑛の原点 —



十勝岳連峰

大地の形成

十勝岳の火山活動による堆積物と侵食で、波状の丘陵地が形成。

1926年

十勝岳噴火

融雪型泥流などで144人が犠牲。温泉・集落も被災。

1962年

再び噴火。地域は復興し、火山と共に生きる道を選ぶ。

1988-89年

噴火を経験。防災体制が強化され、火山との共存が地域の知恵に。

災害を克服するのではなく、火山とともに暮らし続ける。

それが美瑛のレジリエンスの第一層。

2/5 農業がつくった景観

—暮らしが生んだ「パッチワークの丘」—



美瑛の丘は、観光のためにつくられたものではなく、農家の仕事場です。

農業が生み出す美しい景観

- 小麦、じゃがいも、ビート、豆などの輪作（1983年ごろから本格化）
- 毎年作物が変わり、丘の色や模様も変化
- 農業という基幹産業が、結果として唯一無二の景観資源になった



春：緑の畑 夏：小麦の金色 秋：収穫後の茶色 冬：雪の白

Agriculture → Landscape → Tourism
この順番が、美瑛の強さの土台。

3/5 「美しい」を発見した写真

— 何もない農村が観光地へ —



1971年

写真家・前田真三が初めて美瑛を訪れ、丘陵農村景観を作品として発信。その写真が全国に知られることで、「何もない農村」が「美しい丘のまち」として注目されるようになった。

既にあった暮らしと産業を、別の価値として発見した。



大きなテーマパークではなく、日常の風景が世界に選ばれた。

4/5 観光の広がり、守る仕組みづくり

— 急増する観光と、地域を守る選択 —

2005年

「日本で最も美しい村」連合 設立
農村景観を将来世代に残す地域資産として位置付け。

2015年

青い池がAppleの壁紙に採用され、世界的に知名度が上昇。観光客が急増。

2018年

道の駅「びえい白金ビルゲ」開業など、白金エリアの観光インフラ整備。

現在

自然環境保全条例・景観条例、撮影ルール、混雑対策（パーク&ライド）、ツーリストシップ、持続可能な観光目的地実現条例などを推進。



青い池



道の駅 びえい白金ビルゲ

観光客を増やす
(量の拡大)



地域を守る
(質の持続)

観光が増えるほど、農業・景観・暮らしが脅かされる。だからこそ、「地域を守ることが、観光を強くする」という発想へ。

美瑛のレジリエントな観光とは、地域の暮らしと農業を守ることが、結果として観光を強くしてきた100年の物語。

5/5 これからも、100年先の美瑛へ

— レジリエントな観光の未来 —

2022年

十勝岳エリアが日本ジオパークに正式認定。

2023年

美瑛町がUN Tourism「Best Tourism Villages」に認定。

そして現在

自然・農業・地域社会・観光を一体で捉え、次の世代へつなく持続可能な観光地づくりを進めている。



この風景を、
未来のこどもたちへ。



持続可能な
美瑛の未来

BIEI

つなぐ、美しい日常を。

美瑛に紡がれてきた
強く韧やかな観光

- 1.3億年前の北米プレートの衝突で美瑛のなだらかな丘陵地形成
- 十勝岳の度重なる噴火との共存
- 写真家による農業が創り出す景観美発券
- 防災施設設置による観光地創出
 - 1) 砂防ダム設置による青い池出現
 - 2) 避難用の白金橋を架けたら白髭の滝の素敵な眺めを発見
- 元祖：インフラツーリズム



「持続可能で強靱な観光国際年」 セミナー

こんな隠れた物語を一緒に見つけ、
観光を通じて次世代へ伝えていきませんか？
ありがとうございました。

(株) JTB 国際関係統括 熊田 順一
j_kumada002@jtb.com